

# 資料 1

平成 30 年 10 月 30 日

## 第 24 期 第 2 回 材料工学委員会 バイオマテリアル分科会

### 議事録

1. 日時 平成 30 年 10 月 30 日(火)10:00-12:00
2. 場所 日本学術会議 5 階 5-C(1) 会議室
3. 出席者(敬称略) 埴 隆夫 副委員長、岸田晶夫 幹事、中野貴由 幹事、明石 満、宇尾基弘、大矢根綾子、菊池明彦、新家光雄、丸山 厚、由井伸彦、宮本直子(学術会議)  
出席委員 11 名  
片岡委員長が欠席のため、埴副委員長が司会を担当  
  
欠席者(敬称略) 片岡一則 委員長、岡野光夫、春日敏宏、高原 淳  
欠席委員 4 名
4. 議題
  - (1) 第 1 回バイオマテリアル分科会(6 月 4 日開催)議事録確認
  - (2) 提言のインパクトレポートについて
    - ・資料 2 に基づき「医療を支えるバイオマテリアル研究に関する提言」について 4 つの主要提言内容を説明。
  - (3) 学術会議ホームページ「SDGs から見た学術会議—社会と学術の関係を構築する—」に対する対応について
    - ・資料 3 に基づき、埴副委員長から報告があった。
    - ・岸田より、SDGs の「安心・安全」となった。SDGs には「健康社会」もあるが、全体のバランスから所属が決まっているとの説明がなされた。
  - (4) 第三部会報告
    - ・第 24 期第 4 回第三部会資料(平成 30 年 10 月 3 日・4 日)を回覧し、内容を確認した。
  - (5) 主催シンポジウム開催(11 月 13 日)について
    - ・岸田から資料 5 に基づき説明がなされた。
    - ・11 月 13 日の日本バイオマテリアル学会会期中の 2.5 時間で開催され、文部科学省、AMED 等から講演をいただく。
    - ・来年度についても実施予定で、すぐに提案する必要があるので意見をいただきたい。
    - ・埴副委員長より、当シンポジウムは公開であり無料であることなどが説明された。
  - (6) マスタープラン提案について
    - ・資料 6-1 に基づき埴副委員長からマスタープランの策定について提案。

- ・区分 I（新規）で申請する。
  - ・大矢根委員より、第 3 部会（第 2 4 期・第 3 回）資料（第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（MP2020）の策定方針（案））について説明された。学術的意義、コミュニティーの合意（拡がりや合意のレベルを含む）、国際性、SDG s などが評価の観点とされることが説明された。
  - ・資料 6－2 に基づき埴副委員長からロードマップとマスタープランとの関係について説明。
  - ・次回は由井委員が日本バイオマテリアル学会の会長として代表者に就任し、提案することが了承された。
  - ・由井委員よりマスタープランの考え方が提示され、由井委員、岸田、大矢根委員、菊池委員、中野が中心に担当。
  - ・由井委員より前回のマスタープランとしては、オールジャパンでのバイオマテリアル研究の基礎研究から製品までの俯瞰できる体制の構築、教育（多様な人材育成）の充実、競争的資金の問題点などを盛り込んだことを説明。さらに、次回マスタープランには各省庁（文科省研究振興局、AMED、JST など）を含めた勉強会の内容も入れ込みたい。
  - ・明石委員よりベンチャー人材も含めた博士後期課程人材育成の重要性を強く盛り込んだ方が良いとの説明。マスコミとの関係や標準化の重要性があるのでないかとの指摘があった。
  - ・新家委員より拠点をどこに置くかを明確化すべきとの意見。
  - ・丸山委員より、拠点化（集中化）と研究の多様性の確保（分散化）のバランスを考える必要があるとの意見があった。
  - ・宇尾委員より、東京医科歯科大歯学部の特化を構築しようとしたこれまでの経緯が説明された（大型重点研究にはなっても、実際に予算化されるまでの道のりは遠い、等）。
  - ・2 月の時点である程度の方向性を示したものを本委員会で提出する。
- (7) 次回開催日程（平成 31 年 2 月 1 日 15：00～）日本学術会議
- (8) その他
- ・次回の学術会議シンポジウムを開催する準備
  - ・次の提言について考える必要

第 2 回（今回）の議事録確認については、埴副委員長一任とすることが了承された。

文責 岸田晶夫・中野貴由